

第13回施設連絡責任者会議

まだ肌寒い3月3日(土曜日)の午後、日臨技より2名の講師を京都府立医科大学基礎医学学舎にお招きして開催しました。60名を超える多くの方にご参加頂き、関心の高さがうかがえました。

演題①：精度保証施設認証制度およびLCCLS共用基準範囲採用について
坂元徳隆氏(日臨技制度保証施設認証WG委員)

第三者評価であるCAP認定やISO15189との比較、認証の条件、現在の認証数と課題について、また日本臨床検査標準協議会(JCCLS)が中心となって設定された共用基準範囲について説明されました。

主要な血液検査40項目に基準範囲が設定され、これは地域差が無いこと、大規模調査に基づき設定され信頼性の高いレベルであることが示されました。

近年において地域医療連携が推進されるなか、多くの施設で共用基準範囲が採用され医療機関の間で検査情報が有効に共有されることが望めます。

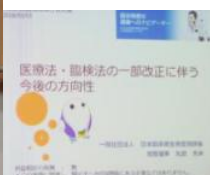


演題②：医療法・臨検法の一部改正に伴う今後の方向性

丸田秀夫氏(日本臨床衛生検査技師会 常務理事)

医療法・臨検法改正が昨年6月に成立し本年12月頃に施行となりますが、その内容(検体検査の分類、検体検査について品質・精度管理に係る基準など)が示されました。

この法改正により検査精度に関して初めて明記されたこと、その責任者は医師・臨床検査技師であることを踏まえ、臨床検査技師の重責を強調されました。



第33回 京臨技精度管理調査 合同報告会



第13回施設連絡責任者会議終了後に、隣の講義室に会場を移して精度管理調査合同報告会を開催し、各研究班の精度管理委員よりそれぞれの分野の解答、解説を行いました。

京都府全体での精度管理調査の結果はおおむね良好であり、一定の精度が保たれていました。

各研究班それぞれの報告の際には質疑応答で活発な意見交換がなされました。精度管理調査を答え合わせだけで終わらせず、その狙いや間違いやすいポイントを踏まえて各施設の検査に反映させることが重要なのだと改めて感じられる報告会でした。

今年度より日臨技のJAMTQCシステムを利用した精度管理調査を行いました。今後データ管理を行う上で、システムを利用することにより集計などの作業効率の改善に繋がると期待しています。



全国検査と健康展(京都会場)



京都北部の冬の天気は「弁当忘れても傘忘れるな」のことわざの通り「しぐれ」の日が多く、12月開催となった今年、まず天候を心配していました。開催当日朝8時、会場のハピネス福知山に集合すると快晴！文字通りhappiness！日頃の京臨床技活動を見てくれている神様からプレゼントでした。

3年連続となる福知山市開催。毎年の体験を楽しみに参加してくれた方には「去年も来てくれていましたね。一年変わらずでしたか」と声をかける姿も。それだけ地域密着型活動で「臨床検査技師さん」が市民にとって身近な存在になってきている印象を受けました。

各種体験はもちろん、臨床検査専門医の先生に日頃の心配事を相談できることを楽しみに参加されている方も多いようです。今年は佐藤先生(東京女子医大)と宮崎先生(兵庫医大)の2人が担当してくださり、来場者からは「親切にゆっくりと耳を傾けてくれてうれしかった、安心した」という声が聞かれました。



市民公開講演【タニタ食堂に学ぶ500kcalまんぷく定食のコツ】

今年は若い層の参加が多かったことも我々にとってはとてもうれしいことでした。アンケート集計(回答率78%)では10～50代が約半数(47%)。高齢化の進む地域においてはすごいことです。

高校生向け職業紹介コーナーでは、自分の未来に向かって真剣に話を聞く制服姿の高校生もいて思わず「センター試験、がんばってね」と声をかけてしまいました。

「正しい臨床検査の知識を知ってもらうことで、『自分自身で健康維持をしていくきっかけ』を作ってもらう」「臨床検査技師という職業を知ってもらう」この2つを目標に全国津々浦々で毎年開催していくことで、ひとりでも幸せな方が増えればいいと思っています。



念願のサブスリーを達成しました！

サブスリーとは、フルマラソン(42.195km)で3時間以内にゴールすることです。サブスリーランナーは市民ランナーの上位3%といわれており、市民ランナーにとっては大きなステータスなのです。

去る2017年12月17日、第48回防府読売マラソンにおいて、念願のサブスリーを達成しました！日々の練習は、家族が寝静まっている頃あるいは子供の昼寝中に、平日は30分、休日であれば1～2時間ほど走りこみ、レースに臨みました。

レース本番、最後はふらふらになりながら競技場に帰ってくると、待っていたのは公務員ランナー川内優輝選手!!なんと川内選手、レースに優勝したのち、ランナーの応援をしていたのです！川内選手の応援に感動し、最後の力を振り絞って2時間59分13秒でゴールできました(ぎりぎり！)

来シーズンの目標は2時間55分を切るのですが、まずは家庭第一、仕事第二で、ほどほどに走ろうと思いました。

文責：京都第一赤十字病院検査部 中倉真之



編集後記 あるファストファッションブランドに買い物に行った時の話。会計のセルフレジが驚きの優れもの。ATMのような機械の扉の中にカゴごと商品を入れると瞬時に値段が画面に表示されたのです。商品にICタグが付いており電波を用いて非接触で読み書きするRFIDというシステムが使われているとのこと。バーコードではレーザなどでタグを1枚1枚スキャンするのにに対し、RFIDでは複数を一気にスキャンすることができ、また遠くにあるタグを読み取ったり箱を梱包したまま中のタグを一括で読み取ったりすることもできます。そういえばRFID付き検査試薬やRFID付き検体ラベルなど、臨床検査分野でも使われ始めていますね。(さ)

発行所 (一社)京都府臨床検査技師会
発行責任者・編集者 白波瀬 浩幸
編集者 齊藤 祐巳子
〒606-8395 京都市左京区東丸太町 9-1 マンパワービル3F
TEL・FAX 075-752-5090
<http://plaza.umin.ac.jp/kamt/>
会員専用ページ：ID kamt PW kyoringi

ご意見等は、京臨床ホームページのトップページ最下部「お問合せ」ボタンから